

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成25年9月19日 (2013.9.19)

【公表番号】特表2013-502151(P2013-502151A)

【公表日】平成25年1月17日 (2013.1.17)

【年通号数】公開・登録公報2013-003

【出願番号】特願2012-524700(P2012-524700)

【国際特許分類】

H 0 4 N 13/04 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 13/04

G 0 3 B 21/14 Z

G 0 3 B 21/00 A

G 0 3 B 21/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月12日 (2013.8.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

立体プロジェクションシステムで使用するための複数の立体画像ペアに対してクロストーク補償および差分歪み補償を提供するための方法であって、

(a) 立体画像ペアの第 1 の画像および第 2 の画像の投影に関連する少なくとも 1 つの差分歪みに基づいて、歪み補償変換を判定するステップと、

(b) 残留差分歪みに関連する不確実性および投影された画像空間内の領域に対するクロストークパーセンテージに従って、クロストーク補償を前記複数の立体画像ペアに適用するステップと、

(c) 前記歪み補償変換を前記複数のクロストーク補償済みの立体画像ペアに適用し、差分歪み補正を有する前記複数のクロストーク補償済みの画像ペアを含む立体表現を作製するステップと、

を含む、前記方法。

【請求項 2】

ステップ (a) は、

測定、推定、および計算の少なくとも 1 つを実行することにより、前記少なくとも 1 つの差分歪みを判定するステップをさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記クロストークパーセンテージに部分的に基づいて、前記立体画像ペアの前記第 1 の画像内の少なくとも 1 つの画素に対するクロストーク値を判定するステップと、

前記少なくとも 1 つの画素に対する前記クロストーク値に基づいて、前記クロストーク補償を判定するステップと、をさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記クロストーク値の前記判定するステップは、前記立体画像ペアの前記第 2 の画像にばかり関数を適用するステップをさらに含む、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記残留差分歪みに関連する前記不確実性は、前記ぼかし関数内のパラメータである、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記ぼかし関数はガウス関数である、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

ステップ (b) は、測定および計算の少なくとも 1 つにより、投影された画像空間内の前記領域に対する前記クロストークパーセンテージを判定するステップをさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記複数の立体画像ペアは、フィルムおよびデジタル画像ファイルの 1 つに提供される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

立体プロジェクションシステムで使用するための複数の立体画像ペアにおいて、クロストーク補償および差分歪み補償を提供する方法であって、

(a) 第 1 の立体画像ペアの第 1 の画像および第 2 の画像の投影に関連する少なくとも 1 つの差分歪みに基づいて、歪み補償変換を判定するステップと、

(b) 残留差分歪みに関連する不確実性および投影された画像空間内の領域に対するクロストークパーセンテージに従って、少なくとも 1 つのクロストーク補償を前記第 1 の立体画像ペアに適用するステップと、

(c) 前記歪み補償変換を前記第 1 のクロストーク補償済みの立体画像ペアに適用し、クロストーク補正および差分歪み補正を有する第 2 の立体画像ペアを作製するステップと、を含む、前記方法。

【請求項 10】

ステップ (a) はさらに、

測定、推定、および計算の少なくとも 1 つを実行することにより、前記少なくとも 1 つの差分歪みを判定するステップをさらに含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

ステップ (d) で判定された前記クロストークパーセンテージに部分的に基づいて、前記第 1 の立体画像ペアの前記第 1 の画像内の少なくとも 1 つの画素に対するクロストーク値を判定するステップと、

前記少なくとも 1 つの画素に対する前記クロストーク値に基づいて、前記少なくとも 1 つのクロストーク補償を判定するステップと、をさらに含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 12】

前記クロストーク値を前記判定するステップは、前記第 1 の立体ペアの前記第 2 の画像にぼかし関数を適用するステップをさらに含む、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記残留差分歪みに関連する前記不確実性は、前記ぼかし関数内のパラメータである、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記ぼかし関数はガウス関数である、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

ステップ (b) は、測定および計算の少なくとも 1 つにより、投影された画像空間内の前記領域に対する前記クロストークパーセンテージを判定するステップをさらに含む、請求項 9 に記載の方法。